

研究部会報告



● 評価の OR ●

・第6回

日時：2月14日(土) 13:30~16:00

出席者：23名

場所：政策研究大学院大学

テーマと講師：

(1)「各種精神物理実験によるウエイト推定法の比較評価」

草野友進 (日本大学)

平面上の図形の面積推定ならびに特定点からの距離推定に関して一対比較に基づく推定法(算術平均法, 幾何平均法, 固有ベクトル法等)と一対比較を用いない同時推定法の真値推定能力を比較評価した。

(2)「離散評点相対効率モデル」

岩楯健寛 (日本大学)

絶対効率の比率として相対効率を定義し, この相対効率にもとづく効率性評価モデル「相対効率モデル」を提案し, 評価ベクトルが離散値に限定される場合を考察した。

(3)「ネットワーク型区間 AHP」

荒井良太 (静岡大学工学部)

評価値を区間として与え, 基準化不満関数の概念を導入し, 各評価者の不満度を測定できる「ネットワーク型区間 AHP モデル」を提案した。

(4)「AHP ソフトウェアの開発(2)」

上陰健幸 (静岡大学システム工学専攻)

複数評価者が評価する大規模 AHP において, 評価者別整合度尺度, 全体の整合度尺度, 評価者別の分散, 全体の分布を計算する AHP ツールを説明し, 携帯機種選定での適用例を紹介した。

(5)「PFI における事業者決定方式の一提案」

荒神元之 (政策研究大学院大学)

従来の落札者決定方式と比較して, 公平性, 透明性, 効率性の面で優れていると考えられる AHP を用いる方式を提案した。バランスのとれた明確な評価, 評価に際して思考の整理, 便益項目と費用項目のトレードオフなどが可能となる。

● 不確実性理論の経営科学への応用 ●

・第2回

日時：5月22日(土) 13:00~16:00

出席者：10名

場所：千葉大学理学系総合研究棟1階105室

テーマと講師：

(1)「Regularity of fuzzy measure and Lusin's theorem」

Jun Li (李軍) (中国 東南大学)

距離空間におけるボレル集合体上のファジイ測度の正則性を弱零加法性 (weakly null-additivity) の仮定の下で証明し, Lusin の定理をファジイ測度空間へと一般化している。また, ボレル関数の Sugeno 積分や Choquet 積分の連続関数による積分近似可能性及び Egoroff の定理についても論及した。

(2)「ファジイ距離によるクラスター分析と DP プログラムの計算状況」

岩村寛三, 宮下亮介 (城西大学), 堀池真琴 (帝京大学), 堀口正之 (東京電機大学), 蔵野正美 (千葉大学)

ファジイ距離によるクラスターリング問題を DP アルゴリズムによって解く C 言語プログラムの概要の説明がなされた。さらに, 実際の食品嗜好調査に関するファジイデータを上記の開発プログラムで解析した経験を基に DP アルゴリズムの計算量の問題点や α -レベルによる非ファジイ化への変換に関する容易性等について報告がなされた。

● 21 世紀モノ造りマネジメント ●

・第2回

日時：5月28日(金) 18:00~20:00

出席者：23名

場所：青山学院大学青山キャンパス総研ビル9階第16会議室

テーマと講師：「〈物造り・日本〉再生への道」

山本哲也 (㈱東芝常任顧問, 日本インダストリアル・エンジニアリング協会会長)

モノ造り大国・日本の復活へ向け, 講師の豊富な経験と事例を踏まえ, 広義の生産“Production”から組立製造“Manufacturing”を除いた部分に注力する「〈P-M〉 マネジメント」を中心に, 「経営イノベーション」, 「間接部門の生産性の飛躍的向上」他7つの提

案と解説があった。

● OR/MS とシステム・マネジメント ●

・第1回

日 時：5月29日(土) 15:00~17:00

出席者：16名

場 所：東京工業大学百年記念館2階第1会議室

テーマと講師：「情報システムによる括り出し効果と
組織知能—ハーネシングのうまみ—」

太田敏澄（電気通信大学大学院）

情報技術は、インフラ技術であり、急速なコモディティ化を招いているという議論は適切なものであろうかという問題意識のもと、情報システムは、企業における括り出し効果をもたらし、産業におけるハーネシングのうまみが得られるという仮説を検討した。組織間構造の進化と情報技術のインパクトの関係を生産流通構造の進化過程として説明がなされた。